

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 令和4年度4～7月号

○ 概要

- (1) 令和4年度4～7月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は25,182億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）▲0.2%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,241円（伸び率▲2.0%）であった。調剤医療費の内訳は、技術料が6,887億円（伸び率+2.0%）薬剤料が18,241億円（伸び率▲1.0%）、薬剤料のうち、後発医薬品が3,532億円（伸び率▲4.6%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,317円（伸び率▲3.4%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.74種類（伸び率▲0.4%）、28.2日（伸び率+1.4%）、69円（伸び率▲4.3%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料14,489億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲242億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の2,691億円（伸び幅+55億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+172億円（総額1,832億円）であった。（→P.13～19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	14,489 億円 (▲242 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(2,691 億円)	21 循環器官用薬 (2,374 億円)	11 中枢神経系用薬 (2,141 億円)
0歳以上 5歳未満	73.2 億円 (▲12.2 億円)	44 アレルギー用薬 (26.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (13.2 億円)	61 抗生物質製剤 (8.5 億円)
5歳以上 15歳未満	310.5 億円 (+18.6 億円)	44 アレルギー用薬 (112.2 億円)	11 中枢神経系用薬 (99.8 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(24.3 億円)
15歳以上 65歳未満	5,276 億円 (+12 億円)	11 中枢神経系用薬 (1,058 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(1,014 億円)	21 循環器官用薬 (729 億円)
65歳以上 75歳未満	3,387 億円 (▲171 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(756 億円)	21 循環器官用薬 (625 億円)	42 腫瘍用薬 (575 億円)
75歳以上	5,442 億円 (▲90 億円)	21 循環器官用薬 (1,007 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(893 億円)	33 血液・体液用薬 (670 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,241円（伸び率▲2.0%）で、最も高かったのは高知県（11,097円（伸び率▲1.9%））、最も低かったのは佐賀県（7,841円（伸び率▲0.8%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは鳥取県（伸び率+1.1%）、最も低かったのは熊本県（伸び率▲4.9%）であった。（→P.31～32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.48）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	82.6 %	+0.4 %
薬剤料ベース	19.4 %	▲0.7 %
後発品調剤率	78.5 %	+0.6 %
（参考）数量ベース（旧指標）	58.1 %	▲1.2 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.49~50）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.6 %	+7.2 % (10歳以上 15歳未満)	▲11.2 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.4 %	27.5 % (100歳以上)	11.4 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	82.6 %	87.3 % (100歳以上)	76.8 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.55~59）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	2,993 億円 (▲184 億円)	21 循環器官用薬 (892 億円)	11 中枢神経系用薬 (548 億円)	23 消化器官用薬 (317 億円)
0歳以上 5歳未満	26.2 億円 (▲4.3 億円)	44 アレルギー用薬 (13.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (8.6 億円)	61 抗生物質製剤 (1.7 億円)
5歳以上 15歳未満	54.0 億円 (+0.1 億円)	44 アレルギー用薬 (32.7 億円)	11 中枢神経系用薬 (6.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (6.0 億円)
15歳以上 65歳未満	1,021 億円 (▲34 億円)	21 循環器官用薬 (258 億円)	11 中枢神経系用薬 (236 億円)	44 アレルギー用薬 (118 億円)
65歳以上 75歳未満	698 億円 (▲72 億円)	21 循環器官用薬 (262 億円)	11 中枢神経系用薬 (90 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(77 億円)
75歳以上	1,194 億円 (▲74 億円)	21 循環器官用薬 (371 億円)	11 中枢神経系用薬 (216 億円)	23 消化器官用薬 (156 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.64~69）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,296 円	1,665 円(北海道)	1,103 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲6.3%	▲3.5 % (鳥取県)	▲8.0 % (沖縄県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	82.6 %	89.5 % (沖縄県)	78.6 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.4 %	22.7 % (鹿児島県)	16.7 % (京都府)
後発医薬品調剤率	78.5 %	84.5 % (沖縄県)	74.2 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	58.1 %	65.8 % (沖縄県)	54.3 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和4年度4～7月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。